

みなみたま

会報「みなみたま」第9号

発行 南多摩同窓会あかね会
発行者 小林 幹彦
〒192-8562 東京都八王子市明神町 4-20-1
東京都立南多摩中等教育学校内
URL: www.akanekai.org/
Email: mail@akanekai.org



酒井 由吾 さん



堀竹 充 先生

オーラを出し合う「あかね会」

南多摩同窓会あかね会 会長 小林 幹彦(昭和45年卒)

同窓生の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年より南多摩同窓会「あかね会」の会長を仰せつかっている小林幹彦です。よろしくお願ひ致します。

昨年12月に昭和48年3月卒の堀竹充先生にお会いすることができました。長らく全国連合小学校長会会長を勤められ、現在は十文字学園大学で教員養成に携わっている方です。中教審の臨時委員を勤めるなど精力的に教育界を引っ張っている姿に勇気をもらいました。また、同じ12月に中等3期生で平成30年3月卒の酒井由吾さんにお会いすることができました。日本陸上界「走り幅跳び」のエースです。中等前期課程の頃から全国に名を馳せ、国際大会でも日本代表として活躍、昨年はインターハイや国体で優勝した好青年です。慶応大学での活躍に期待が膨らみ、エネルギーをもらいました。お二人とも独特のオーラをもって、大いに刺激を受けました。そして同窓生であることに誇りを感じました。同窓生だからといって何なのか、あなたの業績ではないだろうと言われてしまえばそれまでなのですが、素直にうれしかったのです。多くの人にあの新鮮な前向きのオーラを伝えたいと思ったのです。

人は人との関わり無しに存在していないことは皆様が認めてくれる事実かと思えます。どこに生まれ、どのよ

うな人に囲まれ、どのような学校に学んだのかということは一一人の個性と無関係ではないはずですが、さらに今後どうなっていくのかということにも人との関わりが大いに影響すると思うのです。同窓生として余計なお節介は慎むべきものの、お互いに成長するための刺激を出し合うことはむしろ推進するべきではないでしょうか。



現代は情報機器や交通機関の進歩で世界が広がり、価値観が多様化しています。この傾向はますます強まるでしょう。なおかつ平均寿命が80歳を超えて第二の人生、第三の人生が可能になっています。退職後の新たな人生設計が夢ではなくなっているのです。それに伴い勉強・進学・就職や仕事の中だけに生きがいや自己の存在意義を自覚することが難しくなっています。同窓会を一つのきっかけにして、お互いに成長し合えるネットワークづくりを進めてみたらどうでしょうか。

この「あかね会」が、皆様の協力により、多くの人にとって有意義なものになることを心から願っています。

成果発表会を振り返って

南多摩中等教育学校長 永森 比人美

平成30年3月17日(土)に実施した成果発表会には、965名の来校者がありました。公開後に成果発表を参観された東京工業大学、首都大学東京の先生方や中等教育学校立ち上げ当時に関わっていただいた方々等、有識者との座談会を校長室で行いました。

今年度は初めて4年生が中間発表として小ホールでポスターセッションを行い、1年生から5年生までの発表ができました。皆さんからは、本校生徒の発表がどれも上手く感心したというお褒めの言葉をいただきました。

「4、5年生の発表の原点は前期課程のグループ発表が基礎になっており、後期課程でそれらが生かされている。前期課程の内にフィールドに出て何を体験するか、異なる年齢の方々と様々な交流を持つことが大切である。大学生になった卒業生の質問が鋭く在校生の刺激になっていた。発表内容が多岐にわたっており、おもしろかった。

先生方の指導は、生徒の設定テーマの幅が広いのでさぞかし大変でしょう。」との感想をいただきました。

また改善点としては、「特に後期生の発表については、なぜその仮説を立てなぜここに行きついたのか、論旨に飛躍の部分が見られたり、データの処理方法に疑問を感じたりする部分があった。これらが改善されればより一層内容の充実が図れる。国語、数学、社会などの教科の学習との関連が大切である。」との御意見をいただきました。

自律的・体験的な探究学習であるフィールドワーク活動を教育の柱に据え教育課程の制度設計に当たられた中等教育学校開設当時の関係者の方々に心から御礼申し上げます。今後もこれらの活動が生徒の生き方・在り方に生かせるよう6年間のストーリーを踏まえた教育活動を展開してまいります。

【特集】 9 年目を迎えた南多摩中等教育学校

南多摩中等教育学校副校長 田母神 武浩

あかね会の皆様、いつもお世話になりありがとうございます。南多摩中等教育学校となり9年目を迎え、学校は創成期から成熟期への時期に差し掛かっています。本校の現状をお伝えし本校の取組について御理解をいただき、本校の一層の発展に向けて、今後もあかね会の皆様の御支援をいただければ幸いです。



第3回卒業式の様子

あかね会の皆様の御支援を受けながら、この春3期生も卒業し、南多摩中等教育学校は着実に歩みを進めています。3期生の大学合格実績は、東京大5、一橋大2、東工大2、横浜市立大(医学部)1名と難関国公立大学で合計10名、他国公立41名、早稲田53名、慶応10名、上智24名、東理大14名の難関私大をはじめ多くの私大にも合格しています。特に早稲田の53名は現役のみの数値で、倍率の上昇した早稲田の入試であったにも関わらず合格者数が増加したということで、ネット上でも話題となっていて、ニュースポストセブン(3月28日配信)

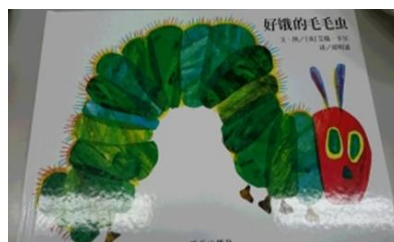
<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20180328-00000001-pseven-soci> に詳しく紹介されています。

本校の教育活動の柱の一つであるフィールドワーク活動の成果を発表する成果発表会が3月17日(土)に開催されました。本校は、今年度から東京都教育委員会の「知的探究イノベーター推進校」に指定されました。特色のある教育活動



として力を入れてきたフィールドワーク活動が、学習指導要領改訂の軸となる「探究活動」に合致するという一方で、なお一層の指導の充実と他校の指導的役割を担うという意味で指定されました。それに呼応し、今年度の発表会は後期生も参加する行

事に改編しました。特に4年生のポスターセッションは本校初の取組で盛況でした。これは、5年生で論文にして発表するのに先立ち、4年生の末での中間報告をポスターにして掲示し、発表者と来場者との間でセッションするものです。これにより、さらに内容の充実した研究に仕上げていくことを狙いとしています。次年度は、是非あかねかいの皆様からも指導助言をいただいて、質の高い研究を増やしていきたいと思ひます。



個々の授業でも新しい取組をしています。国語と外国語との比較により理解を深めるという目的で、3月に早稲田大学などで教壇に立っていらっしゃる李軍さんを招き、2年生の国語で中国語版「はらぺこあおむし」を読みました。中国語の文章を初めて読んだ生徒も多い中、みんなで力を合わせて一生懸命日本語訳を考えていました。分からない単語は英語版「はらぺこあおむし」で確認したり、直接李先生に質問したりと試行錯誤しながらも頑張ってまとめていました。授業の後半では中国語と日本語について比較するなど、本校生徒の聡明さが光りました。

授業以外の取組の一つに、今年度から始まったグローバルスカラーズのスカイプチャットによる交流があります。スカイプチャットとは、チャットを用いた海外の学生との同時双方向の英会話学習です。日本でのグローバルスカラーズへの参加は本校が初めてで、本校が日本を代表する形になっています。この取組ではアメリカ、スペイン、インド、イスラエル等の学校と交流しました。IT技術の進歩により、学校にいながら外国の学校との交流ができるようになったことは、英語活用のチャンスがふえただけでなく、国際感覚を磨くチャンスも増えたこととなります。



スカイプチャットの様子



ビラボーンハイインターナショナル
スクールとの交流

ビラボーンハイインターナショナルスクールとのスカイプチャットの交流では、今後も継続的に交流を進めていく協定（フレンドシップ校としての協定）を結びました。

スカイプチャットによる交流は、本校の教育活動に新しい1ページを加える取組となりました。また、インドのビラボーンハイインターナシ



6年酒井君・インターハイ
男子走幅跳優勝

して優勝しました。陸上競技の都立高校の男子としては、第30回大会（1977年）以来40年ぶりの快挙です。酒井君は国体でも優勝しました。他にも

「太鼓の甲子園（全国大会）」に太鼓部が初めて参加しました。8月には、「全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会」に6年生と4年生の2名が出場し、「全国中学校陸上競技大会」に3年生男子が走幅跳に2年生女子が200mに出場しました。11月には、南多摩フィルハーモニー部が千葉県文化会館で開催された「日本学校合奏コンクール2017全国大会グランドコンテスト」に出場し、銅賞を獲得しました。南多摩フィルハーモニー部は12月に高校オーケストラの祭典である「全国高等学校選抜オーケストラフェスタ」にも参加しました。3月には、なぎなた部が「全国高等学校なぎなた選抜大会」に団体で出場し、入賞手前のベスト16まで進出しました。今後もすべての部活動の応援をよろしくお願いします。



南多摩フィルハーモニー部・
全国大会グランドコンテスト



2年生・東大寺奈良の
大仏見学

今年度から2年生と4年生の宿泊研修に加え、集団の在り方などを宿泊研修で学ぶために1年生、3年生でも宿泊研修を実施することとしました。2年生と4年生は例年通り、関西研修旅行とオーストラリアの研修旅行を実施しました。1年生は御殿場にある国立中央青少年交流の家で宿泊研修を実施し、集団生活と班行動を通して、自主的に責任をもった行動ができるように取り組みました。3年生は山梨県立八ヶ岳少年自然の家で宿泊研修を実施し、非日常的な体験や集団行動を通じて自然への畏敬や食に対する感謝の気持ちを学んだり、協力や協働する態度を身に付けたりすること等を目的として取り組みました。来年度は、1年生から4年生までの宿泊研修に加え、5年生でも宿泊の行事を予定しています。学校では、このような取組から、力強い南多摩生を育成しています。



3年生・冒険ハイク



4年生・ホームステイ先の
ホストファミリーとの対面で

部活動の活躍も多数あります。5月、美術部が上野の東京都美術館で行われた第37回創彩展に作品11点が入選しました。そのうち、5年生が東京都教育委員会賞、同じく5年生が佳作賞、4年生がアーツスペース賞を受賞しました。7月、陸上競技の「インターハイ男子走幅跳」で6年酒井由吾君が7m68の自己ベストタイを記録



5年美術部・東京都
教育委員会賞作品

例年通り各種コンテスト等への参加も盛んです。「高校生言葉の祭典」は、「都立高校生プレゼンテーションコンテスト」と「高校生書評合戦東京都大会の決勝」として開かれます。本校からは両方に参加し、「高校生書評合戦東京都大会の決勝」では見事に優秀賞を受賞しました。「科学



教育長や教育監の方々への
ポスター発表

の祭典」（研究発表会および表彰式）が東京ビッグサイトで開催され、ポスター発表に5年生の2名が「ストームグラスと南極石の研究～高校化学で天気予報～」という内容で発表しました。プレゼンテーション発表では、5年生の別の生徒が「What is a short melody attracting people ～人を引き付ける短いメロディとは何か～」というテーマで英語による発表をしました。高校生を対象



プレゼンテーション発表

とした「科学の甲子園東京都大会」には後期科学部が参加し7位(全41校中)となり、過去最高の成績を収めました。科学の甲子園東京都大会の表彰式では、前期課程(中学)の科学部が参加した「中学生科学コンテスト」で受賞した優秀賞(実技部門)の表彰がありました。他にも生物オリンピック、化学グランプリ、物理チャレンジ、地学オリンピックに参加し、科学部の日頃の研究成果を発揮しました。

生徒達の自主的活動である南魂際の「体育祭」「合唱祭」「文化祭」は、例年以上に活発に実施しました。

「体育祭」では、白団・黄団・赤団・青団の(1年～6年の縦割)4団による団対抗戦で行われます。12歳から18歳までの異年齢の集団によって繰り広げられ、体格の違いから最も中等教育学校の特色が濃く出る学校行事ですが、上級生は下級生をよく面倒をみています。「合唱祭」は、例年通りオリンパスホール八王子



体育祭・団長による宣誓の様子

で開催されました。歴代の南多摩生に続けと、美しいハーモニーに磨きをかけて魂のこもった歌声がホールに響きました。特に1年生はボーイズプラノの存在が目立っていましたが、いずれ6年生のような雄々しき益



合唱祭の様子

荒男の声になっていくのだなと感慨深いものがあります。その6年生は、例年、歌の完成度には驚かされます。「文化祭」は、今年も大盛況でした。好天にも恵まれ、2日間合計の御来場者数も、昨年度より1,500人余り多

い6,438人になりました。御来場いただけた卒業生の



文化祭・演劇の広報の様子

方々も多くいらしたと思いますが、皆様に満足いただける圧巻の舞台等だったと思います。是非、来年度もおいでいただければ幸いです。

今年度も数多く表彰されました。主なものを挙げてみます。本校の防災支援隊の活動や宿泊防災訓練の際の普通救命講習・搬送訓練をはじめとする各種取組に対して、「東京消防庁 救急部長 感謝状」をいただきました。公益財団法人東京都教職員互助会から「ふれあい感謝状」を南多摩フィルハーモニー部と後期陸上部顧問が受賞しました。東京都教育委員会表彰では、前期陸上競技部、前期科学部が日頃の活動に対して表彰され、5年生男子はフィールドワーク活動の成果を発表したプレゼンテーションコンテストでの優秀賞の受賞に対して、同じく5年生女子は「命の大切さを学ぶ教室全国作文コンクール」での警察庁長官賞受賞の受賞に対して表彰されました。また、南多摩フィルハーモニー部の顧問と、なぎなた同好会の顧問が、長年の部活動指導の成果に対して、東京都教育委員会の「Good Coach賞」を受賞しました。本校の関係者が、日々の努力に対して表彰を受けています。これも南多摩中等教育学校が学校として活躍している結果だといえます。

平成30年度、本校は知的探究イノベーター推進校、理数リーディング校、英語教育推進校として教育委員会から指定され、これまでの取組をさらに発展させるべく教職員が一丸となって教育活動を展開してまいります。あかね会の皆様におかれましては、今後も本校への御支援・御協力をいただきたく存じます。教職員一同、今後もあかね会の益々の御発展をお祈りしています。

インタビュー 「酒井 由吾 さん」

南多摩から世界へ ～昨年の全国チャンピオン～

平成29年卒 二ツ橋 瞭

東京五輪まで2年となる今年、南多摩から出場を目指す選手がいます。それは昨年度、南多摩を卒業した酒井由吾さんです。酒井さんは、昨年、陸上競技の高校生日本一を決める舞台上、見事に優勝しました。日本代表として、国際大会に出場した経験もあります。

今回は、インタビューを通して酒井選手の素顔に迫りたいと思います。

南多摩での生活について ～何気ない毎日が一番の思い出です～

—南多摩でお気に入りの場所があれば教えてください—

「一番学校で落ち着くのは、最後の一年間を過ごした教室です。」

—南多摩での一番の思い出を教えてください—

「やはり、クラスの南魂祭（体育祭、合唱祭、文化祭の総称）3冠が一番嬉しかったですね。あとは、何気ない普通の学校生活が、一番の思い出です。」

—南多摩の生徒でよかったなと思うことを教えてください—

「いろいろな考え方を持った人と出会えたことがよかったです。例えば、体育祭を盛り上げる人、勉強をしっかりやろうと思っている人、部活に打ち込む人。それが他の学校と南多摩の違いだと思っていて、そういった人たちと出会えたことで、自分も考え方が変わり、成長したのではないかと思います。」

—では、南多摩がベストの環境であったと思いますか—

「自分がこの良い環境に適応したのだと思います。」

陸上競技について～

—陸上部に入ろうと思ったきっかけは何でしたか—

「小学校6年生までサッカーをやっていて、中学に入ってもサッカーを続けようと思っていたのですが、当時サッカー部がなかったので陸上部に入ろうと決めました。」

—陸上競技の楽しいところを教えてください—

「全速力で走った時の風を切った感覚になることが楽しいです。あと、自分は走り幅跳びをやっているのですが、走り幅跳びは他の陸上競技と違って、最大6回跳ぶことができるので、逆転したり、逆転されたり、そこがとても楽しいです。」

—今までで一番嬉しかった試合は何ですか—

「初めて、日本一になれた中学三年生のときの全日本中学校陸上競技大会ですね。」

—挫折も経験したと思います。どのように乗り越えましたか—

「高校二年生のシーズンは、インターハイに出場することができず、記録が低迷し、かなり辛かったです。何をしてもうまくいかなかったのですが、いろいろなことを悩んでいるうちに、自信も取り戻せて、乗り越えられたと思います。」

—尊敬している人はいますか—

「まず、中学校の強化練習で出会ったある先生です。その先生は、『外国人と日本人にはあまり違いはなく、

日常生活の違いを生んでいる。』という考え方を、外国人と日本人の動画を分析したうえで、自分に教えてくださりました。自分はその考え方が好きで、今も技術指導をしてもらったりしています。あと為末大選手です。最初は、為末選手の考え方はあまり好きではなかったのですが、辛い時期を経験しているうちに、為末選手が言っていることがだんだんわかるようになってきて、今では尊敬しています。大学ではいろいろなことを勉強したいのですが、為末選手は『思い込み』について考えているので『思い込み』について、もっと深めようと考えています。」

将来の目標

—まず、今年のを目標を教えてください。—

「今年の目標は4つあります。全日本選手権、U-20アジア大会、U-20世界選手権（20歳以下の選手が出場する大会）、シニア（年齢制限なしの大会）のアジア大会の四試合で優勝することです。実力的に優勝できると思うので、日々の練習を頑張ろうと思います。」

—東京五輪についてはどのように考えていますか—

「自分は東京五輪に出場することはできると思っていて、一番の目標は優勝することです。優勝できなくても、その翌年に世界選手権があったり、また四年後にパリ五輪があったりするのので、東京五輪は目標であり、通過点でもありますね。」

酒井選手のプロフィール

1999年5月1日生まれ（18歳）。

走幅跳、100m走が専門種目。

全日本中学校陸上競技選手権大会 走幅跳 優勝

2015年アジアユース陸上競技選手権大会 走幅跳 銀メダル

2017年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）走幅跳 優勝

自己ベスト 走幅跳 7m68cm 100m走 10秒75

小さいころの夢は、会社員またはプロサッカー選手。

今年から慶応義塾大学環境情報学部に進学した。

写真：本校ホームページより。



自身初となる全国大会で見事に優勝した



優勝を決めた決勝6回目の跳躍



昨年のインターハイ表彰式の様子

インタビュー 「堀竹 充 先生」

好きなことを職業に！ 教育に携わる日々

平成 29 年卒 跡上 真貴子

堀竹充先生は南多摩高校を卒業後、東京学芸大学にて教育学について学んだ。そして教員、指導主事、小学校校長、教育事務所指導課長等を経て、現在は十文字学園女子大学の教授として教育の道に携わっている。今記事では、そんな堀竹先生の豊富な経験と教育についての想いを紹介したいと思います。



堀竹 充 先生

——教員を目指した経緯

高校三年生の時、社会科が好きであったことと、一般の公務員ではなく教育公務員に関心があったことから、教員になろうと決めた。大学で教育学を学び、塾や個別指導の家庭教師としてアルバイトをするうちに、教員になりたいとの気持ちはさらに大きくなっていった。

——失敗体験から繋がる努力

教員になってから、最初の頃は毎日のように多くの失敗をした。定型の学習内容を教えることに手一杯で、子どもの興味関心を引くような授業は十分にできなかった。子どもの私語を叱っていたが、その責任は面白いと思える授業を作れない自分にあると気付く。そこからは、研究授業を進んで行く、教育実践本を買いあさるなどして授業方法を探った。授業内で使用する資料や、全員が授業に参加できる環境作りなど、学び得た方法を積極的に取り入れることで授業が少しずつ良い方向に変わっているという実感をもつことができるようになった。

——叱るときに意識したこと

子どもを叱らなければいけないとき、命に関わることと相手の心を傷つけるようなことをした、言ったとき以外は、周りに友人がいる中で叱責するようなことはしな

かった。子供のプライドを無駄に傷つけることはせず、一対一の関係でその子どもの話を十分に聞いた。その子どもなりの考えを理解し、認め、対話を進めていくと、子ども自身で自分のどこが悪くてどう行動すればよかったかに気付いてくれる。叱る時はいつも、必ず叱られたことを乗り越え、成長してくれると信じて接していた。

——行政職を経て得た知見

新しい知見を得たのは、指導主事という行政職に就いたことが随分大きい。当時、勤めていた学校の校長に「一度学校を外から見てみないか？」と言われたのをきっかけに指導主事という行政職を目指した。これに就くには試験に合格する必要があるため、教員をしながら勤務後や休日に試験の勉強をした。行政職に就くと、更に多くのものが見えてきた。教員の時とは全く異なる知識を学んでいたが、それは学校にも大いに生かすことができると実感することができた。

——教員を目指す人に期待したいこと

自信をもって子どもに接していける教員になって欲しい。全てを完璧にこなすことは難しいことだが、そこに向かって頑張ることはとても素晴らしい。努力を続けて欲しい。

——インタビューをさせていただいて

お話をさせていただいて、丁寧な態度や話し方に尊敬を覚えた。おごることなく接して下さるのは、自分の能力に安住せず、学び続ける姿勢を持っていらっしゃるゆえなのだろうと感じた。先生にお会いし、お話を聞かせていただくことが出来て良かったです。

——最後に 南多摩高校での思い出

所属していたワンダーフォーゲル部での思い出が強く残っていると話して下さった。入部当初はハイキング部という名前だったが、やっていたことはハイキングの域度を越していたと笑って話す。八ヶ岳縦走も経験したのだそうだ。また日々の活動では、今はない時計台の階段を、毎日十数キロの重たい石を背負子に括り付け、上り下りして足腰を鍛えていたという。何が楽しくてやっていたのか分からないと苦笑しながらも、とても大事な思い出の様だった。自分が興味を持ったことを思いきりできた南多摩高校での時間は、とても価値あるものであったようだ。

【歴史発見】

第四高女時代の音楽教諭 野矢トキ先生

実践女子大学生活文化学科助教 越山 沙千子

今年が府立第四高等女学校（以後、第四高女）が開校してちょうど110年となります。第一（現：白鳳高校）、第二（現：竹早高校）、第三（現：駒場高校）に次いで明治41（1908）年に多摩地域初の高等女学校として開校した第四高女には、ナンバースクールとして優秀な教師が集められていました。音楽においても、当時演奏家の育成と音楽の教員養成を担っていた上野の東京音楽学校（現：東京芸術大学音楽学部）を卒業した教師が赴任しました。開校時から昭和20（1945）年8月に第四高女に在職したことが判明しているのは3名。開校時から2年間在職した伊藤鈴先生（明治22（1889）年-昭和63（1988）年）、大正2（1913）年から大正8（1919）年の途中まで勤めた近藤千穂先生（明治17（1884）年-昭和24（1949）年）、同年10月から昭和20（1945）年8月まで勤めた野矢トキ先生の3名です。本稿では野矢トキ先生について取り上げたいと思います。

野矢先生経歴



野矢トキ先生

『第二十四回卒業記念写真帖』
昭和9（1934）年より

野矢トキ（緋）先生（旧姓吉田、明治23（1890）年-昭和20（1945）年）は、群馬県渋川の呉服屋の四女として生まれ、幼少期からマンドリンや胡弓、三味線、日本舞踊に親しんできたようです。群馬県高崎高等女学校を卒業し、明治41（1908）年東京音楽学校に入学。オルガンを専攻し、第四高女の校歌を作曲した嶋崎（島崎）赤太郎に師事していました。同級生には南多摩高校の校歌を作曲した信時潔や、《シャボン玉》や《カチューシャの唄》を作曲した中山晋平がいます。

明治45（1912）年3月に卒業すると愛知県女子師範学校に赴任しました。教え子には後に婦人運動家として活躍する市川房枝がいます。野矢先生は名古屋で結婚し、大正3（1914）年に退職。しばらく子育てに専念し、ご主人の仕事の都合で東京に移った後、大正8（1919）年10月に第四高女に来ました。昭和20（1945）年8月2日未明の八王子空襲で亡くなるまで、約25年にわたって第四高女に勤めた野矢先生は、生徒たちにお母さんの存在として非常に慕われていました。卒業生からは、野矢先生のピアノがすごかった、ソプラノの歌声がきれいだったと

いうお話を多く聞きます。私の祖母も昭和10（1935）年卒業生で、伯母に野矢先生のピアノの話をよくしていたそうです。

音楽の授業は歌が中心だった

音楽の授業はグランドピアノが置いてあった講堂で行われ、楽典（音楽の基礎的な理論）と歌を教えていました。楽典の教科書には福井直秋が著し、恩師嶋崎赤太郎が校閲に携わった『高等女学校 楽典教本』（1915）が用いられていました。歌の教科書は使用せず、野矢先生が黒板に楽譜を書き、生徒がノートに写譜していたと思われま。八王子郷土資料館には卒業生が使用した楽典の教科書と音楽ノートが所蔵されており、どのような歌を歌っていたのかが分かります。卒業生の証言と併せて歌われていた歌の一部をご紹介します。

◎行事の歌

入学後最初の音楽の授業で習った《校歌》は、初代校長の長尾松三郎先生が作歌をし、嶋崎赤太郎が作曲して昭和6（1931）年に制定されました。「作歌」というのは、主に明治20～30年代に主流であった「外国曲の原詩と無関係に、新たに日本語で作られた歌詞」を指しますが、長尾先生による「作歌」は「日本人が新たに作曲する場合の歌詞作り」の意味で使われています。東京芸術大学には全国の学校から届いた校歌作曲依頼状が保存されていますが、第四高女からの依頼状はありませんでした。よって、野矢先生が恩師である嶋崎に直接作曲の依頼をしたのではないかと考えられます。

今の生徒手帳にあたる『修養手帳』には《精進聖軍の歌》という歌が載っています。第2代校長の阿妻利八先生が非常に尊敬していた高等師範学校時代の先輩川村理平による歌詞に、野矢先生の同級生である中山晋平が曲をつけ、毎週月曜日1時間目に行われる校長先生の講堂訓話で歌われました。難しい言葉が並ぶ歌詞ですが、西川勢津子さん（1989:p. 28）によると「精進をする人は神の兵である。どんなことがあっても勇気を失わず、せかず、急がず、脇目をせず、元気を出して生きてゆきなさい」という意味の歌だそうです。

卒業式には《感謝》が歌われました。「♪雨の日も風の日も 安らかに守られつ〜」という歌い出しで、生徒の憧れの曲でしたが、戦況が悪化した1944（昭和19）年の卒業式では《必勝歌》に取って代わり、残念に思う生徒もいたようです。また、卒業式では自己研鑽の大切さを説いた《金剛石》も歌われました。

◎日本の歌

武島羽衣作詞、瀧廉太郎作曲の《花》は、30年ほど前

に営まれた野矢先生の法要の際に墓前で卒業生による合唱で歌われたそうです。卒業生たちにとって思い出深い歌なのかもしれません。他にも《荒城の月》や《からたちの花》、《この道》、無声映画やチンドン屋の音楽として親しまれた《天然の美》（《美しき天然》とも）などが歌われていました。



音楽の授業風景

『第二十二回卒業記念寫眞帖』昭和7(1932)年より

◎外国の歌

外国の歌には以下の表「外国の歌」のように、「作歌」（この場合は外国曲の原詩と無関係に新たに日本語で作られた歌詞の意味）によって現在とは異なるタイトルと歌詞で歌われていたものが見られます。原曲とは全く異なるタイトルと歌詞に驚きます。当時の生徒たちは「作歌」による歌を歌うことで、現在私たちが訳詞で歌ったり聴いたりする時とは異なる趣で作品を受容していたと思います。

もちろん、訳詞による歌も歌われていました。合唱曲《流浪の民》や試験曲の〈ソルヴェイグの歌〉は上級生が歌う憧れの曲として挙げられます。〈ソルヴェイグの歌〉はグリーグ作曲《パール・ギュント》中の曲で、身勝手な主人公パールが世界を放浪した後、年老いて無一文になって若き日の恋人ソルヴェイグのもとを訪ね、迎え入れたソルヴェイグが歌う中パールがこの世を去る場面の歌です。

野矢先生はどういった意図で選曲をしたのでしょうか。推測の域を出ませんが、歌詞の内容を考えると歌を通し

て良妻賢母教育を行っていたと言えると思います。しかし、それ以上に生徒たちに文化的・芸術的な体験をさせたい、情景が思い浮かぶような、素敵な音が鳴り響く歌によって生徒たちの心を豊かにしたいという思いを感じずにはられません。野矢先生の幼少期や音楽学校での豊かな経験が反映されていると思います。

お話をお聞かせくださった卒業生の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。今後も調査を続けて参りますので、野矢先生に関するエピソードや歌に関する情報がありましたら、教えていただけませんかでしょうか。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(連絡先：南多摩同窓会あかね会事務局 または、越山
Email : koshiyama@akanekai.org)

主要参考文献

- 『東京芸術大学百年史 東京音楽学校篇』第1巻、東京芸術大学百年史編集委員会（1987）音楽之友社
『東京都立南多摩高等学校創立100周年記念誌 湧水万古』創立100周年記念誌委員会編（2008）東京都立南多摩高等学校創立100周年記念事業実行委員会
『写真でつづる母校の七十年』都立南多摩高等学校同窓会あかね会（1978）都立南多摩高等学校同窓会あかね会
『勢津子おばさんの青春物語』西川勢津子（1989）主婦の友社
『高等女学校 楽典教本』福井直秋（1915）共益商社書店
『母校が焼けた日 私の昭和20年』むらさき会（2001）日本エディタースクール出版部
『萌える 東京府立第四高等女学校—ラスト入学生の記事』〈萌える〉編集委員会（1988）都立第四高等女学校第三十八回
『唱歌帖』『音楽ノート』『音楽帖』昭和4（1929）年卒業生
『修養手帳』昭和10(1935)年卒業生

外国の歌

作品名	歌い出し	原曲
才女	かきながせる 筆のあやに	アニー・ローリー（スコットランド民謡）
海樓眺望	朝日のぼる 海の面に	オペラ《リゴレット》より〈女心の歌〉（ヴェルディ）
水	水よいつち 流れゆく	サンタルチア（ナポリ民謡）
庭の菊	庭の千草も 虫の音も	The last rose of summer（庭の千草）
女徳の歌	八千草千草 茂れる中に	オラトリオ《ユダス・マカベウス》より〈見よ、勇者は帰る〉

著者紹介

越山 沙千子：八王子東高校を経て東京芸術大学音楽学部楽理科卒業、同大学院音楽研究科音楽文化学（音楽学）専攻修士課程修了。昭和初期の洋楽受容に関する研究をしている。著書には「日本における《第九》——年

末の演奏会普及の背景——」を執筆担当した『文化としての日本のうた』（東洋館出版社）がある。共立女子大学、帝京大学非常勤講師等を経て、現在実践女子大学生活文化学科助教。八王子市在住。

南多摩高校 二人の同窓生「危険生物」に巡り合う

昭和59年卒 小泉 明代 昭和44年卒 井上 務

私は1984年の卒業生です。その頃はとても大人しい学生でした。長時間の通学の楽しみは電車の中での読書でした。南多摩高校の図書館は蔵書が豊富で、今まで見た事のない美しい生き物の写真、翻訳された海外の生態学関連の本、ネイチャー（自然）を扱った本等が沢山あり、見るだけで心が躍りました。

生物実験室の陳列棚にある足の生えたヘビの液浸標本を見るのが秘かな趣味で、少し変な女子学生だったと思います。そんな感じでしたので生物部の谷先生の勧めで「一人生物部」を作って好きな事をやらせてもらいました。カエルの解剖、ラットの骨格標本作成、マウスの迷路実験等です。

3年生では生物の長坂先生に長野県仁科3湖生物研究所へ連れて行ってもらい、バードウォッチング等をしました。その様な自然体験が元となり大学は理系。野生ニホンザルの観察など自由奔放に活発に活動し、現在は地元武蔵野市のNPO法人武蔵野自然塾で環境教育など自然に関わるイベントを多数行っています。

今年「危険生物」ファーストエイドハンドブック陸編・海編の2冊（写真）が文一総合出版から刊行（武蔵の自然塾編）されました。私の体験談を一部執筆して関わる事が出来たのは嬉しい事でした。

この本は野外活動に携わる関係者や一般の人が危険な生物との接触を未然に防ぎ、むやみに自然を恐れる事の無いようにわかり易く解説しています。

ところで、同じNPO仲間の井上さんとは出身高が同じである事がつい最近、偶然にわかりました。NPOには井上さんはあとから入会したので私の後輩ですが、母校からみると今度は私の方が後輩となり面白い逆転関係となります。

同窓であることが分かった武蔵野市内某所で衆人環視の中、思わず井上さんと意気投合して校歌を合唱した事は楽しい思い出となりました。井上さんもやはり理系大学出身として活躍されており、興味を失わず携わっていれば同じ仲間と出会える事が判り感慨深いものがあります。そんな出会いがきっかけで同窓会報に寄稿させて頂く機会を得た事を大変ありがたく思っております。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

（小泉明代）

NPOでは後輩、母校では先輩の井上（S44年卒）です。

その日、私は赤い帽子を被って某小学校のビオトープで小泉明代さんと一緒に自然を理解するための授業を担当していました。小泉さんは名前が明代さんなので「アッキー」、私はツトムなので「トム」と呼んでください

と自己紹介し野外授業がスタートしました。3クラスの元気な子供たちとの3回に分けた楽しい時間を過ごしました。後片付けが終了したら12時を過ぎていました。

「お腹が空いたネ」と若くて美人の小泉さんを井上オジサンは昼食に誘いました。たまたま「母校はどこ？」と聞くと「南多摩」との驚くべき回答。「エッ～！同窓生！！」と私はビックリ。思わず♪湧き～水は～♪と歌い出してしまいました。小泉さんも♪街を巡り～♪と続きました。イヤ～、世間は狭い！数日後、再びアッキーとトムは授業参観日で父母が教室後方にズラ～ッと並ぶ教室で植物を中心にした授業を担当していました。

そんな南多摩同窓の二人が関わった本が出版されたので急に思い立って武蔵野自然塾で久しぶりにお会いしたアッキーさんに「これこれこういうわけだから原稿を書いて」とお願いし「写真も必要だネ」と近くにいた方にいきなりお願いして撮った写真（貝がいっぱいの後方壁面にご注目を！）と2冊の写真を添えて皆さんに報告させていただきました。

本屋さん立ち寄りしたら「危険生物」巻末にある小泉明代さん（2冊とも）と井上務（陸編のみ）を確認してみてください。ところで、NPO理事の要職にある小泉さんもただの会員である井上も決して「危険生物」でないことは言うまでもありません。（井上 務）



危険生物（見本）

卒業生による文化祭での飲食出店

平成29年卒 上林 篤史

昨年(2017年)の9月に開催されました母校文化祭に、あかね会を代表して中等2期卒業生より有志が飲食店を出店させていただきました。一昨年の文化祭に1期生の先輩方が卒業生として初めて出店をされ、本年もそれに続く形で2年目の出店のお話を頂きました。

本年度の店名は、有志内での協議の結果『あかね屋』に決定し、和風をコンセプトとする方向でまとめました。販売するメニューは、おにぎり各種と冷やし中華で主食系を強化し、そのほかソフトドリンク、かき氷を販売することにしました。仕入れの数量や業者、装飾案、役割分担、予算見積りなど決定しなければいけない事項は多岐にわたり、困難なこともありましたが、卒業した立場で改めて自分らの手で飲食団体を成り立たせることは大変刺激的な体験となりました。

卒業生の出店には『卒業生がもう一度母校で一堂に会し、仲間と文化祭を楽しむ』という目的のほかに『在校生の団体のみでは応えきれない昼食需要に応え、在校生とともに文化祭を盛り上げる』という目的がありました。そのため出店に当たってはそれらを達成することを念頭に置き、例えば在校生では必須となっている食券制を廃して自作のレジスタを導入するなど、店の回転をあげてより多くのお客さんに来ていただけるような工夫をこらしました。また仕入れの手配や資金の面でも、在校生には規則上難しい点をあかね会の皆様のご協力のもとで積極的にカバーし、卒業生の立場をいかした文化祭への貢献を第一に企画を練っていきました。



「あかね屋」店舗外観

文化祭を成功させるためには有志内での連携も不可欠で、大学生活があるなかでも密に連携していくという点には大変気を遣いました。お互いの負担を軽くしようと役割を分散させたためにかえって意思疎通が難しくなってしまうというような、みんなが同じ校舎にいた在校生時代では顕著でなかった問題も、離れた仲間と準備を進めていく上では大きな障壁となりました。そのような中でも会計や仕入れ、装飾といったおのおの役割を的確

にこなし、長い時間を共にした“痒い所に手が届く”仲間と確実に協力し合えたことが、ここまでの完成度の出店を実現させたのだと思います。

文化祭当日、お店の前にはランチルームを分断するほどの長蛇の列ができ、大変な賑わいとなりました。2日間で合計およそ1700人の方にあかね屋をご利用いただき、用意したおにぎりや冷やし中華は完売したほか、かき氷は文化祭終了まで売れ続ける人気を見せました。在校生のお店とともに南魂祭を盛り上げるという目標は十分達成でき、お店の収益としても無事に黒字をだすことができました。およそ3か月のあいだ準備を進めてきた甲斐あって、大成功のうちに終わることができたのではないかと考えています。さらには参加してくれた2期生有志のみんなが、それぞれに7年目の文化祭を楽しんでくれたのなら、在校生が久しぶりに先輩との再会を喜んでくれているようなことがもしあれば、それ以上にうれしいことはないと感じています。

卒業してもなお母校の行事に参加するというのが先生方や文化祭実行委員に少なからず手間をかけてしまうのは事実ですが、それでももう一度だけ南多摩に戻ってこられる機会がいただけたことはとても幸せなことでした。母校への恩返しとまでは言えないにせよ、また僕らを迎え入れてくれた分の貢献が文化祭のお手伝いという形で成せていただいていたと思います。準備のあいだは昨年出店された先輩方のアドバイスに助けられた部分もとても大きかったので、いつか後輩が続いてくれた時のために僕も先輩に倣ってアシストできる準備をしておきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の出店には大勢の方のお力添えを頂きました。皆様のご協力なしには到底出店までこぎ着けなかったと思っています。あかね会の皆様、在校生の実行委員や生徒部の先生方、購買部の皆様、そして7年目の文化祭に参加してくれたたくさんの有志のみんなと、一緒に代表を務めてくれた3人に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



飲食出店の参加者

南高時代のクラス登山—大菩薩峠の思い出—

昭和36年卒 溝口 重郎

私は昭和33年に南高に入学しましたが、当時一学年は8学級編制で、私は1年7組に所属しました。2学年から3学年は、私は6組に編制替えになりましたが、1年7組からは11名が引き続いて矢代先生のクラスとなりました。南高校在学中に夏季休業中や定期考査が終了した直後に、担任の矢代正先生がクラスの希望者を募り、生徒達を夏山に引率してくれました。

私はこの様なことが初めての経験でしたので、是非参加してみたい思い、参加希望書を提出しました。また帰宅後にはすぐノートに登山記を書いたことがありましたので、それを整理して纏めてみました。

3学年の夏休みに入った昭和35年7月20日に矢代先生の引率でクラスの仲間と大菩薩峠に登りました。このときは、登山に先駆けて登山靴と登山用の靴下、登山帽、地図とケースなどを購入して装備を整えました。当日は夏休みの初日で、何となくあわただしい感じがしました。

八王子駅発が夜中の午前零時38分発の河口湖行きに乗車をしました。矢代先生は「みんなも一学期が終わって、今日はほっとしたような感じだね・・・」と笑いながら話していました。この様な夜の時間帯でもいろいろ出掛ける乗客がおり、大月駅ではデッキから出られないような状況で、やむなく窓からホームへ出ましたが、「太平洋戦争後の食料の買い出しのような光景だね」と笑いました。大月駅を2時10分発の甲府行きに乗り、塩山(えんざん)駅まで50数分間乗車しましたが、車内はむせかえるように暑くて、目を閉じていても興奮して寝ているどころではありませんでした。

午前3時4分に塩山駅に到着しました。下車すると冷気が覆ってとても気持ちよく感じました。構内を出る時は登山靴の金具が「カチカチ」と歯切れよく鳴りました。駅前の商店も静まりかえって、登山者の話し声だけが妙に響き渡りました。駅から50メートルも離れない所にバスの停留場があり、そこだけは明るく電球が点灯し、混み合っていました。午前3時50分に声が通らない男性の車掌が「発車しまーす」との合図で、一路裂石へと向かいました。窓の外は、黒いカーテンをおろし、その中に白いバスの土埃が舞い上がって闇を消しているかのようでした。

裂石(さけいし)付近になるとあたりの景観が見えだしました。地図を見ると標高800メートル位の所でした。バスから下車すると冷気で肌がギューと締まるような感じでした。水筒には水をいっぱい詰めました。

4時25分頃、雲峰寺(うんぼうじ)の石段を左側に眺めながら一步一步山道を登っていきました。30分程登った所に2軒の茶店がありました。1軒は閉まっていた

が、もう1軒はすでに店を開いていました。左手前には小川が流れていました。気圧が違うせいと一緒に登ってきた人達の顔が、何となく青ざめて見えました。この茶店でおにぎりを食べましたが、寝不足と疲労感で食欲がありませんでした。

20分位休憩した後、皆と再び登り始めました。もう完全に夜も明けて朝の小鳥たちの鳴き声がどこからか聞こえてきます。このあたりから急勾配になり危険な場所もありました。矢代先生が「この山は良いけれど夜だったらこの辺は危険だね・・・」とも話していました。

ここから長兵衛小屋まではだらだらしたつづら折りの道で、涼しくて良かったのですが、見晴らしがきかず残念でした。長兵衛小屋にあと少しという所で同行した方がバテ気味で足が遅くなりましたので、励ましながら登って行きました。6時45分頃に長兵衛小屋に到着しました。ここでは10分位休憩をしました。

その後福ちゃん荘を目指してさらに登って行きました。この間は比較的穏やかな道で、あたり一面50センチ位の草やアヤメなどの草花が朝露に濡れて新鮮そのものでした。途中富士山がまるで屏風絵のように美しい姿を現し、思わずうっとり眺めました。そこで参加者で集合写真を撮影しました。三脚がなかったので、和田千穂さんが撮ってくれました。



前列左から高橋・小倉・堀本 後列左から豊澤・小林・矢代先生・弓狩・溝口

午前7時10分頃には福ちゃん荘に着きました。ここから2つに道が分かれ、右は峠へ、左は嶺へ通じる道でした。私たちはあえてつらいコースを選択しました。これは堀本君が棒の倒れた方に登ろうと提案し、左に倒れたためでした。

このあたりでやっと太陽に照らし出されました。鳥たちのさえずりと登山者の声が入り交じり、急ににぎやか

になりました。視界も一段と開けて地図を眺めると、標高が1800メートル位ということがわかりました。富士山が後方にくっきり見え、右方向に八ヶ岳はひょっこりと頭を出しており、木々は目に見えて背丈が低くなりました。

私は途中で足の重くなった方のリュックも背負っていましたので、重みを感じ、背中などに汗がじわじわと出ていました。一刻も早く頂上に着きたいという気持ちでいっぱいでした。

ようやく目の前に頂上が見えて「あと一息だ！」と思うと、急に足が軽くなった思いがしました。それでも頂上は「ほら、ほら」といって後ずさりをするような感じでした。途中で一度立ち止まり双眼鏡で頂上を眺めました。思わず登山帽の間から「すー」と汗が流れ落ち、思わず帽子を脱ぎ汗を拭きました。

朝露に登山靴を濡らしながら一步一步登り「あと少しだ」と思いながら歩みを進めました。そして2056メートルの頂上に立つことが出来ました。



大菩薩峠頂上に立つ・後方は富士山(和田千穂さん撮影)

頂上は岩石がしっかり重なり合っている場所でした。私は四方を眺めながら水を飲み、持参したおにぎりを食べましたが、一段と美味しく感じました。あたりの広大な景観を眺めて「大菩薩にやって来て良かったな！」と思い、山の醍醐味を存分に味わうことが出来ました。

午前9時20分頃下山をすることになりました。途中で『大菩薩峠』で有名な作家中里介山の碑を見学しその後大菩薩峠に着いたのは10時頃でした。さらに石丸峠が見晴らしが良いということを聞いていたので、歩いて行きましたが、それほどではありませんでした。徹夜で登山したことで、体感的には午後4時頃のような錯覚を覚えました。

「大菩薩峠はまず三ツ峠(1学年の時に登った)に比べてヤブ蚊がいないことと、次に山自身は一本調子ではないので、その場に応じてコースの変更なども出来る山だね・・・」と、矢代先生が山の特徴を話してくれました。

大菩薩峠を11時20分頃出発して、途中で中里介山の寓居の側で10分位休憩をとりました。

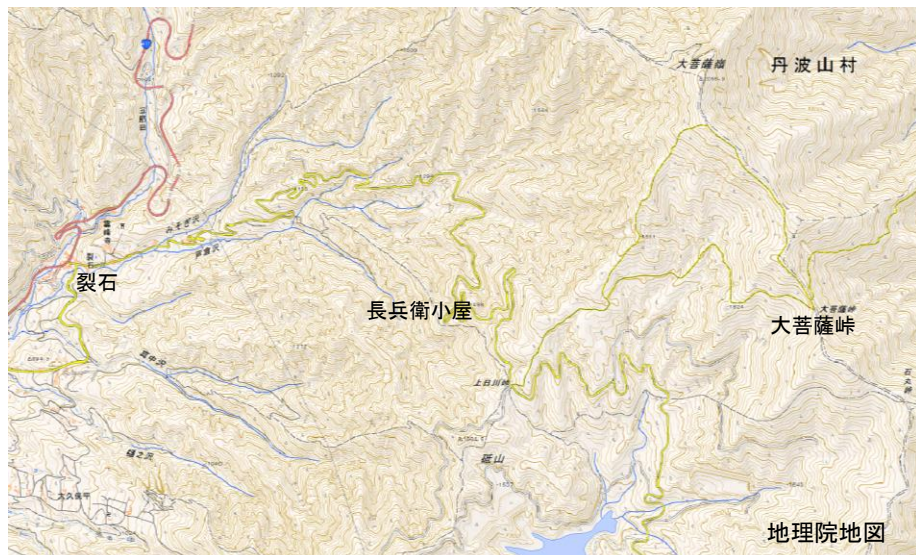
福ちゃん荘に戻ってきたのがちょうど12時頃のことでした。さすがにここまで来ると少々足の痛みも感じました。それから山の歌などを皆で口ずさみながら、長兵衛小屋に到着したのは12時50分頃でした。ここで持ってきた昼食をとりました。

午後1時30分頃長兵衛小屋を出発し、今朝登ってきた道を下りました。下り始めて皆がバラバラになり、私は和田さんと一緒に話しながら下山しました。

今朝初めて休憩した茶店に着いたのは、2時10分頃でした。すぐに小川でむれた足を冷やしました。矢代先生から「2時30分から3時15分まで、短いがゆっくり仮眠するように」と指示されて、茶店で横になって仮眠をしました。

3時20分に出発し、同50分には裂石発のバスに乗車するために急ぎました。この間は太陽が照りつけて汗もかきました。無事に定期バスに乗車出来ましたが、バスも相当込み合い、暑い中でつり革にぶら下がりながら立っていました。

午後4時30分にはようやく塩山駅に到着し、外に出ると、涼しい風にほっとしました。塩山駅では30分間自由時間で、土産物店を見て回り、5時7分発の電車に乗って、無事に帰宅することが出来ました。



大菩薩峠登山ルート
(1/200,000地勢図「甲府」昭和55年)
(赤枠が左図の範囲)

あかね会と同窓会活動・母校支援について

◆平成29年度あかね会総会開催

平成29年5月21日（日）午前11時から、京王八王子駅前のホテル「ザ・ビー」で南多摩同窓会あかね会定期総会が約60名の参加で開催されました。

第1部の総会は、開会の辞に続き、会長挨拶は石川和昭会長が体調不良のため、小林幹彦副会長が代理で挨拶を行い、その後名誉会長の森永比人美校長から現在の学校の紹介を兼ねて挨拶がありました。

議事は、議長に昭和36年卒の溝口重郎さんが選出され、平成28年度事業報告、決算報告及び会計監査報告について、役員から資料に沿って説明があり、それぞれ承認されました。

続いて平成29年度の事業計画、予算案について説明があり、幾つかの質疑がありましたが、役員の説明を了として、それぞれが承認されました。

次に、役員の変更について提案され、前年度までの会長、副会長、会計及び会計監査1名が交代し、新たに庶務に2名の役員が選出されました。退任した前会長と副会長は、顧問、相談役として引き続き会の運営を補佐していただくことになりました。

議事終了後、長年にわたり同窓会を支え続けていただいた会長の石川和昭さん（昭和36年卒）、副会長の野口富巳子さん、田中ミホさん（共に昭和35年卒）に感謝状と記念品の贈呈が行われました。



総会の風景

第2部の講演会は、平成10年卒業のけん玉師、伊藤祐介さんにより、けん玉曲芸とトークが12時から1時間ほど行われました。けん玉のさまざまな技が披露され、技が成功するたびに、大きな拍手と感嘆の音が聴かれました。途中で参加者全員にけん玉が配られ、持ち方の基本を指導していただき、玉を大皿に載せたり、けん先に玉を指す技に挑戦しました。うまく技が決まると会場から歓声が上がりました。最後に飛行機という難易度の高い

技に挑戦し、参加者の一人が1回で成功させることができ、伊藤さんから記念に「けん玉」が贈呈されました。



伊藤さんによるけん玉

29年3月卒業生

第3部の懇親会は、小林幹彦新会長、森永比人美校長、日笠美香PTA会長の挨拶に続き、黒須隆一顧問による乾杯の発声で懇親会がスタートしました。進行役は、昭和30年卒の大塚光代さんと昭和44年卒の井上務さんのコンビです。参加者へのインタビュー、トークに続き、本年卒業した新入会員3名には、一人ひとりに会長から記念品が渡され、それぞれが将来に向けた夢を語りました。懇親会は瞬く間に2時間余りが過ぎ、恒例の校歌斉唱を行い、定期総会から懇親会まで4時間余りの会は、和やかなうちに無事終了しました。

◆高尾山納涼会の開催

8月19日（土）、あかね会納涼会が高尾山薬王院で開催されました。前年は大雨の納涼会でしたが、今回はとても暑い気候でした。高尾山薬王院客殿での納涼会は、参加者が25名と少なめでした。

納涼会に先立って行われた第2回常任委員会は、浜中賢司副会長の進行により、あかね会活動協力金の報告、平成30年2月発行の会員名簿の概要、9月の文化祭「南魂祭」への出展と売店出店計画などについて協議が行われました。

正午から開催された納涼会では、OBの大山隆玄高尾山薬王院貫主が体調を崩され恒例の挨拶がない中、小林幹彦あかね会会長の挨拶、黒須隆一顧問の乾杯があり、出席された皆さんは名物の山菜料理「高尾膳」を食しながら懇談会に入りました。

その後、井上務副会長の司会で、参加者の皆さんからひと言ずつ近況報告などがなされ、和やかなうちに納涼会が進みました。今回は健康談議に花が咲き、それぞれの体調不如意や日頃の健康維持活動の報告などで大変盛り上がりしました。

終了後には、薬王院の秘宝ともいえる白書院の見学を特別に許可戴き、担当の方の解説により、参加者は十分に堪能することができました。



納涼会参加者集合写真

◆「南魂祭」であかね屋の出店と展示

南多摩中等教育学校の文化祭『第109回南魂祭』は、平成29年9月9日(土)～10日(日)に母校で開催されました。前日まで雨や曇りが続きましたが、当日は一転して晴れ上がり気温も上がりました。同窓会「あかね屋」の会場は、本年も西館玄関の階段を上がって直ぐの2階6-Cの教室の展示と、東館1階のランチルームでの2期生による「あかね屋」飲食販売でした。

西館2階の展示コーナーには、南多摩の歴史パネルの展示、卒業生による本等の展示(作品展示はなし)のほか、中央にテーブルと椅子をセットし同窓生や訪れた一般参加者との交流の場を提供しました。

本年の催し物は、昭和44年卒の井上務さんによる^{しゅろ}棕櫚の葉を使ったバッタ、カタツムリ、カエル、馬のしおりなどの棕櫚細工の体験コーナーでした。小学生から後期生までが参加し、中には何度も訪れて、そのつど違う作品にチャレンジする子もいました。



井上さんの棕櫚細工



シュロによる作品

東館1階ランチルームの「あかね屋」では、本年の卒業生がおにぎり・冷やし中華のほか、飲み物やかき氷などを販売し、人の列が絶えませんでした。



中等教育学校2期生による飲食店「あかね屋」



教室を会場に行われた在校生による展示や演劇も多く

の人で賑わい、体育館での講演もいつも席が満席状態でした。このほか、日曜日には中庭でダンスや大きな書道のパフォーマンスが行われ一段と盛り上がりを見せました。

◆「先輩に学ぶ」の開催

平成29年11月29日(水)に母校の多目的教室で、中等教育学校4年生150人を前に、「当事者・リーダーになること」をテーマに、黒須隆一顧問が「先輩に学ぶ」授業で熱く語りました。

地元の小中学校から南高に進んだ黒須先輩は、兄妹4人の長男として、家業(建設業)を継ぎ、32歳のとき「世のため人のために何かを尽くせ」と周囲から言われ、政治家をめざしたそうです。

33歳で八王子市議会議員になり、その3期目の途中で都議会議員選挙に挑戦したが、二度の落選で8年間の辛い日々が続き、背水の陣で臨んだ3回目の都議会議員選挙にはトップ当選を果たしたそうです。

その後、平成12(2000)年、5選をめざした前市長の対抗馬として立ち、現職に倍する票を取り八王子市長に当選しました。その3期12年間に取り組んだ様々の施策などを、生徒に熱く語りました。

当時の八王子市は財政破綻の状況下で、職員に意識改革を訴え、経営者として(株)八王子市の実現、コスト、スピード、経営感覚の大切さを訴えました。行政改革を徹底した結果、平成18年には、行政改革で全国第1位となり、他所でやっていないことを進める「オンリーワンのまちづくり」も進めました。

その内容は、不登校児童・生徒を対象にした高尾山学園、東京初の「道の駅八王子滝山」の開設、ごみ収集の有料化、捨て看板防止条例等の施策です。

次に、やがてリーダーとなる生徒に対して、八王子市長として「決断と責任」「ぶれない」ことを実践してきたこと、組織の皆の信頼を得ることの大切さを説きました。最後に生徒に、好きな言葉であるレイモンド・チャンドラーの言葉の紹介がありました。

「強くなければ、生きていけない。優しくなければ、生きる資格はない」と力説しました。



講演する黒須隆一顧問

◆あかね会新年会開催

平成30年1月13日（土）、南多摩同窓会あかね会の新年会が、京王八王子駅前のザ・ビー八王子において、34名が出席して開催されました。

小林幹彦会長から、横川椋子銅像の着色修復の報告と、オリンピック強化選手が期待されることなど新年の抱負が語られ、永森比人美名誉会長（校長）からは、第3期生の活躍への期待のほか、教員や生徒の表彰、新しい入試改革などが報告されました。

参加いただいたPTA日笠美香会長からは、中等教育学校の保護者連絡会の幹事を経験して好評だったことや、3期生が元気にセンター試験を迎えられたことについて、報告がありました。

新年会前に開催された常任委員会では、それまでの行事報告、今年2月発刊の会員名簿の報告に続き、平成30年度広報の発行計画が提案されました。その後、新年会は中村晋也氏（昭和53年卒）の進行で始まり、黒須隆一顧問の乾杯の発声で懇談に入りました。

懇談ののち伊達めぐみさん（平成3年卒）の進行で、各テーブルから新春インタビューを行いました。席上、常盤正臣氏（昭和31年卒）が上辞された「知的障害者雇用を成功させる8つのポイント」が紹介され、好評を呼びました。最後は大塚光代さん（昭和30年卒）、田中ミホさん（昭和35年卒）の音頭で、第四高女の校歌、南多摩高校・中等教育学校の校歌を声高らかに斉唱し、新春の和やかな新年会を閉じることができました。



新年会の様子

◆横川椋子銅像を着色修復しました

母校の通用門横にある横川椋子先生の胸像（青銅製）は、昭和61年に現在地に建立し、30年が経過していました。胸像の色合いが薄れ、台座石の銘板・碑文板がくすんできたことから、昨年11月下旬に着色修復を行い、きれいに生まれ変わりました。母校を訪ねた際にはお確かめいただき、お参りをさせていただければと思います。



きれいになった横川椋子胸像と碑文板

◆平成29年度のあかね会活動紹介

平成29年度のあかね会活動は、5月の総会の後、役員会、常任委員会を中心に協議を重ね、活動を進めています。平成29年度の会議開催状況は下表のとおりです。

あかね会常任委員会開催状況

回	議 題 等
第1回 6月10日	○総会・懇親会の反省 ○高尾山納涼会の計画 ○南魂祭への参加計画
第2回 8月19日	高尾山納涼会の実施 ○南魂祭への参加計画 ○「先輩に学ぶ」の計画
役員会 12月2日	○会員名簿の発行計画 ○新年会の開催 ○あかね会会報の発行計画
第3回 1月13日	新年会の実施 ○あかね会会報の発行計画 ○総会の計画・準備
第4回 3月24日	○29年度の事業実施状況 ○会報編集の進捗状況 ○総会の計画・準備

◆会員名簿を発行しました

あかね会は、会員相互の親睦・研修と母校の支援活動の充実に努めています。今回、2月初旬に同窓生のつながりをお確かめするため、会員名簿を10年ぶりに発行しました。発行は、実績と信頼のある業者に調査・作成を依頼し、約1500名の方々にご協力をいただきました。

新しくなった会員名簿を、同期会やクラス会開催の折にご活用いただければ幸いです。

なお、会員名簿に若干の残部があります。ご購入をお忘れの方に有償（送料込 4,600円）で頒布します。

⇒連絡先 溝口 猛【電話】090-6489-5939

あかね会記念行事・募金のお知らせ

母校創立110周年・南多摩中等教育学校創立10周年

明治41年(1908年) 府立第四高等女学校創立

⇒昭和25年(1950年) 都立南多摩高等学校へ改称

⇒平成21年(2009年) 都立南多摩中等教育学校創立

◆南多摩中等教育学校を新たなる母校に

都立南多摩高等学校は、平成27年3月に107年の営みを終え、幕を閉じました。明治、大正、昭和及び平成の歴史にその名を記した母校南多摩高等学校は、改めて同窓生一人ひとりの青春の思い出とともに深く心に刻まれ、折にふれて思い出されることと思います。

この間に培われた校風や伝統は、「南多摩」の名称とともに中等教育学校に引き継がれました。2万9千名余の卒業生は、南多摩高等学校を母体として出来た中等教育学校を新たな母校と思い、今後の発展を見守り、支援を継続してまいります。

(広報「みなみたま」第6号・会長挨拶より)

◆記念式典(学校主催)

・祝賀会(同窓会・PTA主催)

2019年(平成31年)11月開催予定

都立南多摩中等教育学校が創立され、来年で10周年を迎えます。来年は、母校創立110周年、同窓会あかね会創立もほぼ110周年となります。詳細は未定ですが、来年11月には記念式典、祝賀会を開催する予定としています。

特に、祝賀会は同窓会がPTAや学校と本年4月以降に協議を行い、企画運営する予定です。旧交を深め新たなエネルギーを得る機会として、あかね会員の皆様に、ぜひご出席くださいますようご案内いたします。

◆募金のお願い

現在の都立南多摩中等教育学校の生徒の活動について、様々な分野での活躍は目を見張るものがあります。

例えば、陸上競技では高校生チャンピオンの出現があり、太鼓部・なぎなた同好会・南多摩フィルハーモニーなどは全国大会に見事に出場しています。この春中等教育学校3期生が卒業しましたが、大学進学の実績は拡充し、研究・芸術等での各種コンテストにおける受賞も数多く、知的探求イノベーター推進校、英語教育推進校等の各種指定など華々しいものがあります。詳しくは南多摩中等教育学校のホームページをご覧ください。

同窓会あかね会としては、頑張る現役生徒をできる限り応援・支援したいと思います。例えば、部活動合宿や遠征費用の補助、太鼓や楽器などの寄贈、研究器具購入や論文集作成費用の補助等の研究活動への助成などです。頑張っている後輩生徒のため、来年予定する募金活動にはぜひご協力をお願い申し上げます。

募金等の方法(来年を予定)については、詳しくは後日ご連絡申し上げます。

◆過去の募金活動等について

母校の創立100周年記念事業は、平成20年(2008年)に実施されました(学校、同窓会、PTAの三位一体の態勢)。そのときの募金活動等について振り返ってみたいと思います。

募金活動は平成17年12月以降、3回にわたって行われ、約4千万円のご厚志を戴きました。

募金は次の事業に活かされました。①記念式典、②祝賀会、③記念誌、④会員名簿、⑤和太鼓寄贈、⑥洋楽器寄贈などです。なお、残余金は「100周年記念基金」を設置し(平成31年3月までの10年間運営されます)、その後も後輩生徒の活動に役立ってきています。

お住まいに健康と団欒をお届けする
ミャンマーチークフローリングと周辺造作材専門店

ミャンマーチーク販売株式会社

代表取締役 臼井 成美
臼井 実千恵 (旧姓岡村 昭和46年卒)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-8-4 BABAビル
TEL: 03-5333-3055 FAX: 03-5333-3077
<http://www.myanmar.co.jp>

学校法人片柳学園
東京工科大学
【昭和35年卒】
学長 軽部征夫 理事 黒須隆一

<八王子キャンパス> <蒲田キャンパス>
〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1 〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22
TEL.042-637-2111(代) TEL.03-6424-2111(代)

www.teu.ac.jp
併設校: 日本工学院専門学校 / 日本工学院八王子専門学校

S2 Sanhyosha **刷新ing**
お任せ下さい! 印刷のすべて。

取締役副社長 野口 富巳子 (昭和35年卒)

有限会社 **三共社** 〒192-0041 東京都八王子市中野上町 2-29-1
TEL. (042) 625-8325 FAX. (042) 625-8369
<http://www.san-p.co.jp>

高級オリジナルニット
色彩の魔術師

齋藤都世子作品ルーム
浅野 常子 (昭和34年卒)

〒192-0904 八王子市市安町3-32-10-106
☎・FAX:042(646)9833 / **090-1422-1192**

◆毎月、初台オペラシティタワー54階等でニットショーを開催◆
案内状を差し上げます。お問い合わせください。

法あるところに救済あり!

司法書士・行政書士 空衣事務所

みなさまとお会いしたいと思っています
代表 入沢 修自(平成5年卒)

〒206-0011 東京都多摩市関戸4-23-1 関戸ビル301
電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755
<http://www.sorai-law.com>

医療法人社団 大島会

大島耳鼻咽喉科気管食道科クリニック

院長 大島 清史 / 副院長 澁谷 正人
大島 富子(昭和25年卒)

〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9
TEL: 042-642-8012
<http://www.oshima-ent.com>

医療法人社団 三真会
勝田 医院
泌尿器科・内科・外科

院長 勝田真行 / 勝田三枝子(旧姓石森 昭和33年卒)

〒193-0803 八王子市檜原町 556-1
電話:042(625)2727 FAX: 042(625)2700
〔休診日: 日・祝、木・土の午後〕

TKC. KFS 推進事務所

税理士法人 **西東京会計**

代表社員・税理士 加藤 晃(昭和38年卒)

〒192-0032 東京都八王子市石川町 733-4
TEL:042-644-1771 FAX:042-645-7372
<http://www.tkcnf.com/ntk/>

グループホーム びおら

要介護の高齢者に共同生活介護を提供するほか、デイサービスやサロンのサービスを提供しています。

齊藤 万理子 (昭和44年卒)

〒192-0056 八王子市追分町9-4
TEL.042-682-1301
FAX.042-682-1305
<http://www.biora.biz/>

NAKANO

学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園

なかの幼稚園 そこは
子どもの世界です。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
<http://www.nakano-kd.ed.jp/>
理事長 中村 健(昭和46年卒)

一級建築士事務所

株式会社 浜中企画

浜中 賢司 (昭和44年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話:042(654)4325 FAX:042(654)6128
mail: hamanaka@tokyo.email.ne.jp

病院、施設の給食品専門問屋

増田屋
株式会社 増田禎司商店

代表取締役 増田太郎 / 増田敦子(昭和34年卒)

〒193-0801 八王子市川口町 1415
TEL:042-654-2222 FAX:042-654-5049
<http://www.masudaya.1965.com>

知的障害者
雇用を
成功させる
8つの
ポイント

ツイートのポイント
を
配した
環境
を
から
まで

常盤 正臣

こんな珍しい本を出版しました!!
このタイトルの裏に子育てや教育
に役立ち、活用できることが満載
です。関係者や興味をお持ちの方
にお読みいただきますように

常盤 正臣
(昭和31年卒)

注文は下記「ぶどう社」へ (送料無料)

A5判 176頁 1,800円+税 TEL 03-5283-7544 FAX 03-3295-5211

南多摩高校
平成3年度卒業

歌手業を軸に
観光旅館業を
行っています

富士山麓リゾート&ビジネスホテル

ホテルベル鐘山

伊達めぐみ

～歌手生活26周年～

『永恋』(ながこい)
『ヒロイン』

2016.6.29発売

TEL 0555-24-8888

不動産業(賃貸マンション・貸倉庫)
石田倉庫のアートな2日間

石田産業有限公司

代表取締役社長 石田 高章
常務取締役 石田 菊江(昭和27年卒)

〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル 2F
TEL : 042-522-2406 FAX: 042-525-0483

伊藤税務会計事務所

税理士 伊藤 仁教
伊藤 幸子 (昭和32年卒)

〒192-0045 八王子市大和田町3-6-21
TEL:(042)642-2719 FAX:(042)642-5034

心のふるさと
祈りのお山
高尾山

薬王院 山主 大山 隆玄(昭和28年卒)
<http://www.takaosan.or.jp>

有限会社 保寿産業

代表取締役 小川 禎子
(旧姓 岸 昭和31年卒)
〒190-0023立川市紫崎町1-9-32

NPO法人 八王子・台湾友好交流協会

理事長 黒須 隆一
(昭和35年卒)

〒192-0046 八王子市明神町4-1-2ストーク八王子205号
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

ISO 9001 認証取得

エコアクション21 認証取得



黒須建設株式会社

代表取締役社長 黒須 光隆
取締役 黒須 俊輔(平成20年卒)

本社 〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL 042-642-5331(代) FAX 042-642-5314
<http://www.kurosuno-kensetsu.co.jp/>

コンピュータソフト開発&運用 (有)ライズ

代表取締役 中村 晋也(昭和53年卒)

〒192-0066 八王子市本町30-6 (N-Twoビル3F)
電話:042-620-5425 FAX:042-689-4149

STATE STREET



1歩足を踏み入れれば、そこは外国!
たくさん聞いて話して自然に身につく英語をモットーにしております。

幼児～大人

野澤 経子 (旧姓 市川)昭和55年卒

〒192-0046 八王子市明神町 4-2-10-403
南多摩高校前 ラーメン御殿 4F TAK 八王子
電話:090-4753-0268 E-mail:statestreet.english@gmail.com HP:Statestreet.jp

明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。

浅川
長房西
諏訪

社会福祉法人 相友会

保育園

諏訪 のぞみ乳児園

理事長 村松 一恵(昭和28年卒)

法人本部〒193-0812 八王子市諏訪町5 TEL : 042-651-4555

《保育方針》心身共に丈夫な身体づくりと、
夢と希望を持った子供に。

社会福祉法人 愛和会

八王子市立 多賀保育園 (指定管理者)

園長 和田 百合子(昭和35年卒)

〒192-0051 八王子市元本郷町3-8-16
電話:042-622-2054 FAX:042-622-2054

5月20日の「平成30年度あかね会総会」にご出席ください

南多摩同窓会「あかね会」は、毎年、5月の第3日曜日に八王子市内で定期総会を開催しています。(あかね会規約第7条)

毎年、定期総会に続き、講演会を開催し、その後、新入会員の紹介、懇親会を開催しています。

同窓会総会は、現在の母校を知る機会であり、また、共に学んだ仲間との再会、年齢を越えた先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合っご参加ください。懇親会に参加される方は、事前の申込みをお願いします。



平成29年度の定期総会・懇親会

平成30年度あかね会定期総会

【日時】平成30年5月20日(日) 11時～

【場所】ザ・ビー八王子

八王子市明神町 4-6-12 ☎ 042-646-0111

【懇親会費】5千円、学生2千円(当日徴収します)

※講演会にあわせ、きもの参加者を歓迎します。

【プログラム】

総会 11時～12時

事業報告・決算、事業計画・予算

講演会 12時～13時

鈴木 啓三 氏

(青梅きもの博物館館長、駒込和装学院院長)

演題 「和装と日本の伝統文化」

懇親会 13時～

昼食、懇談、新入会員の紹介等

【申込方法】常任委員を通じてお申し込みください。

又は、下記へ5月12日(土)までご連絡ください。

【申込先】山口久美子 ☎090-1214-7484

溝口 猛 ☎090-6489-5939

「あかね会活動協力金」のお願い

この度のあかね会広報紙「みなみたま」第9号の発行は、卒業生会員(約3万名)のうち物故者、消息不明の方を除く1万7千名の方にお送りしました。

「あかね会活動協力金」は、広く同窓会活動への協賛を得る目的に、会員の皆様にご協力をお願いすることに

しました。

1口千円とし、従来のように広報発送経費やその他の母校支援等への資金として活用させていただきます。ご協力はあくまで任意です。お志のある方は、可能な範囲でご協力をよろしく申し上げます。

あかね会活動に、ご一緒に参加してみませんか

◆高尾山納涼会(8/18(土)) 高尾山薬王院の精進料理を食べて夏バテを解消。参加費5,000円(予定)

◆母校文化祭への出品者募集(9/8(土)・9(日))

母校の文化祭「南魂祭」に卒業生の作品展示を行います。書道、絵画、写真、陶芸作品などを募集します。

⇒連絡先 溝口 猛【電話】090-6489-5939

住所変更の際には、あかね会にご一報ください

毎年、広報紙を発行すると、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、同窓会の名簿担当あてに連絡をお願いします。

【メール】meibo@akanekai.org

【郵便】〒192-8562 八王子市明神町 4-20-1

都立南多摩中等教育学校内 あかね会名簿担当あて

【編集後記】

今年は、前身の第四高女設立から110年目にあたる。10年前の創立100周年のときに卒業生から提供いただいた基金を使い、母校への支援を行いつつ、卒業生全員に母校の様子を伝える広報を送り始めて今号で9号になる。

この10年の間に母校は新たな1歩を踏み出した。

「南多摩中等教育学校が開校して9年が経ち、来年は10年の節目を迎える。初夏の明るい緑に瑠璃色が映える季節である。卒業生は、学校のシンボルマーク「オオルリ」のように、全国に飛翔している。また、卒業1年目の文化祭への参加など、中等教育学校卒業生による新たな伝統が芽生えていることを頼もしく思う。(菱山)